

第 10 回

熊本県議会

国際スポーツ大会推進特別委員会会議記録

平成29年3月10日

開 会 中

場 所 第 1 委 員 会 室

第 10 回 熊本県議会 国際スポーツ大会推進特別委員会会議記録

平成29年3月10日(金曜日)

午前10時0分開議

午前10時54分閉会

本日の会議に付した事件

- (1) 2019女子ハンドボール世界選手権熊本開催に関する件
- (2) ラグビーワールドカップ2019熊本開催に関する件
- (3) 2020東京オリンピック・パラリンピック競技大会に関する件
- (4) 付託調査事件の閉会中の継続審査について
- (5) その他

出席委員(15人)

- 委員長 溝口幸治
- 副委員長 早田順一
- 委員 氷室雄一郎
- 委員 藤川隆夫
- 委員 小早川宗弘
- 委員 西聖一
- 委員 浦田祐三子
- 委員 高野洋介
- 委員 濱田大造
- 委員 橋口海平
- 委員 楠本千秋
- 委員 河津修司
- 委員 末松直洋
- 委員 山本伸裕
- 委員 松野明美

欠席委員(なし)

委員外議員(なし)

説明のため出席した者

商工観光労働部

- 部長 奥 蘭 惣 幸
- 政策審議監 磯 田 淳

観光経済交流局長 中 川 誠

観光課長 永 友 義 孝

国際課長 小 金 丸 健

国際課政策監 末 藤 尚 希

くまもとブランド

推進課長 柳 田 紀代子

国際スポーツ大会

推進局長 小 原 雅 晶

国際スポーツ大会

推進課長 水 谷 孝 司

教育委員会

教育理事 金 子 徳 政

教育政策課長 田 村 真 一

体育保健課長 平 田 浩 一

総務部

人事課長 平 井 宏 英

企画振興部

地域・文化振興局長 斉 藤 浩 幸

地域振興課審議員 鈴 和 幸

健康福祉部

障がい者支援課長 井 上 康 男

土木部

道路都市局長 松 永 信 弘

都市計画課審議員 伊 東 貢

警察本部

警備第二課長 中 村 勇 一

交通規制課長 森 教 烈

事務局職員出席者

政務調査課審議員 中 村 彰

政務調査課主幹 法 川 伸 二

午前10時0分開会

○溝口幸治委員長 ただいまから第10回国際スポーツ大会推進特別委員会を開催いたします。

なお、本委員会に7名の傍聴の申し込みがあつておりますので、これを認めることといたします。

それでは、審議に入ります。

お手元に配付しております本日の次第に従い、まず執行部から一括して説明を受け、その後、質疑は議題ごとに行いたいと思いません。

○水谷国際スポーツ大会推進課長 おはようございます。国際スポーツ大会推進課長の水谷です。本日も、よろしくお願ひいたします。

では、失礼して、座って説明させていただきます。

本日、資料はA4横のページ上に「特別委員会資料」と記載されているホッチキスでとめてあるものが1部と、A4縦で、「第41回日本ハンドボールリーグ女子プレーオフの観戦について」という文書が1つ、それとカードサイズで「ラグビーワールドカップ公式サポーターズクラブ会員募集」、以上3種類配付させていただいております。よろしくお願ひします。

では、A4横の特別委員会資料をお願ひします。

表紙は、目次となっております。

これから付託案件について、順に説明させていただきます。

まず最初に、女子ハンドボール世界選手権熊本開催に関する件です。

開いていただいて、1ページをお願ひします。1ページは、大会の概要です。大会期間、試合会場などは、ごらんのとおりとなっております。説明は、省略させていただきます。

2ページをお願ひいたします。

前回の委員会以降の主な取り組みを御説明いたします。

①ですけれども、昨年12月にスウェーデン

で行われました女子ヨーロッパ選手権を視察いたしました。今回、女子の大会ということで、事務局の女性職員3人を派遣し、現地在住の日本人女性、元ハンドボールのプレーヤーの方ですけど、この方に御案内をいただきまして、女性の視点でいろいろと大会の運営を視察してまいりました。

次は、1月にフランスで行われた男子の世界選手権です。前半、後半2組に分かれて視察を行いました。

②は第1組で、今回、県警本部からも2名御参加いただいて、警備や輸送面も含めて視察を行いました。写真の右のほうにありますとおり、会場の周辺や選手のホテル、ファンゾーンなど至るところで銃を持った警官が警備を行っていました。また、開会式にはオランダ大統領も出席され、特に厳重な警備対策が行われておりました。

3ページをお願ひいたします。

③は、1月に日本ハンドボール協会の主催により、昨年のリオオリンピックのハンドボール競技の運営責任者を熊本にお招きしまして、競技運営を担う県ハンドボール協会、大会運営を担う事務局のスタッフに対する研修会が開催されました。研修会には、会場地の山鹿市、八代市からも御参加をいただいております。

④は、男子フランス大会の第2組です。

吉永議長や、日本また熊本県ハンドボール協会会長も同行しまして、国際ハンドボール連盟や各国の協会に対し、2019年の熊本大会や東京オリンピックのキャンプ誘致について積極的にロビー活動を行いました。

4ページをお願ひします。

(2)は、主な広報PR活動についてです。

①ですけれども、昨年末日本ハンドボール選手権大会が行われまして、女子は地元のオムロンピンディーズが優勝しました。

この会場に、公式キャラクターのくまモンも登場し、女子ハンドボール世界選手権をP

Rいたしました。

②ですけれども、1月以降、日本ハンドボールリーグが県内各地で開催され、それぞれの会場においても女子ハンドボール世界選手権のPRを行いました。

次の5ページは、そのときの様子です。写真の左下の山鹿会場の試合は、地元民放テレビでも放送され、元オムロン、また元全日本監督の西窪さんが、ルールや戦術また世界選手権に向けた展望などをわかりやすく解説していただきました。

6ページをお願いいたします。

県の広報媒体である県政番組や県からのたより、また地元紙の県政特集などでPRをさせていただきました。

7ページをお願いします。

⑤ですが、昨年末、熊本空港ビルディングに御協力をいただき、阿蘇くまもと空港第4搭乗口の壁面に、大会のポスターを連張りさせていただきました。年末年始の繁忙期と重なり、多くの方の目に触れたことと思います。また今後も、同じ場所を提供していただくということとして、先週末からは写真の右のように、展示内容を変更したところです。今後も、展示内容を工夫していきたいと考えております。

⑥は、先月開催された熊本城マラソンの出場者へのPRです。出場者への参加要項等の事前配布の郵便物に大会のチラシを同封し、約1万3,000人とされる出場者へ配布されました。また、大会の前日、前々日の受け付けの際にも、女子のハンドボール世界選手権大会、ラグビーワールドカップやこれから行われるプレーオフやテストマッチのPRを行いました。

8ページをお願いします。

⑦は、体育保健課で実施された、競技普及のためのハンドボール教室です。県内の小学校10校に講師を招き、実施校の児童また実施校管内の教職員を対象に実施されました。ま

た、教室実施校を含め、県下の小中学校にハンドボールを配布し、競技の普及が図られました。

右の写真のまん中で長身の方がおられますけれども、この方は前の全日本代表の監督で、97年の男子の大会も主力として活躍した、熊本出身の岩本さんです。そのような方が講師として来られましたので、地元も大変喜ばれたということです。

⑧は、先月、最後の週末に日本ハンドボール協会の主催事業として、スポーツ庁の委託を受け女性アスリートの強化支援事業が、熊本市のアクアドームくまもとで行われました。

国際ハンドボール連盟IHFのスタッフによるコーチ、レフリーのトレーニングのほか、大会運営のミーティングなどが行われました。

また、日本代表U22とカザフスタン代表との国際試合も行われ、世界選手権や東京オリンピックを見据え、若手選手の強化を図るとともに、競技運営についてさまざまな助言をいただきました。

9ページをお願いします。

⑨は、先月末フランス大使公邸にパリ市長が来られた際、くまモンにぜひ会いたいとお話をいただきましたので、小原局長が一緒に訪問し大会をPRしました。

フランス代表は、1月の男子世界選手権で優勝し、リオオリンピックでは男女とも銀メダルを獲得するなど、世界のトップレベルにあります。ハンドボールの人气が非常に高く、熊本大会の誘客や東京オリンピックのキャンプ誘致にもつながればと思います。

⑩ですけれども、3月5日が大会の1,000日前に当たりましたので、ハンドボール愛好者で大会成功に向け決起を行うとともに、ラグビーワールドカップと合わせたカウントダウンボードの除幕セレモニーを行い、機運の盛り上げを図りました。

このカウントダウンボードは、県庁本館1階と熊本市役所の1階に置いています。大会の情報等を継続的に出していくこととしておりますので、一度ごらんいただければと思います。

10ページをお願いします。

今後のスケジュールです。

最初のポツですけれども、ことし12月にドイツで行われる女子世界選手権の出場権をかけたアジア予選が、来週から韓国で行われます。日本チームも出場し、3位以内の出場権をかけて戦います。事務局からも訪問し、国際連盟やアジア連盟と連携を深め、また大会のPRや運営の視察を行う予定としております。次は年度末ということで、大会組織委員会の理事会を開催いたします。来年度の事業計画や予算の審議を行っていただく予定です。

次は、熊本で初めて行われる日本リーグのプレーオフです。女子のハンドボールチーム日本一を決める大会で、地元オムロンペンディーズも出場します。

本日、皆様にお配りしているもう一つのA4縦の資料がそうなんですけれども、御案内をさせていただきたいと思っておりますので、ぜひ会場で御観戦いただければと思います。

次の6月には、ドイツ大会の組み合わせ抽選会が行われます。2019年度熊本大会でも、大会の半年前に行いますので、運営についての視察を予定しております。

次の、3、今定例会に提案している来年度の予算についてです。総額7,100万円余を提案させていただいております。同額を負担します熊本市と、あと日本ハンドボール協会の負担金を合わせて、組織委員会としては総額1億4,500万円余の予算で準備を行いたいと考えております。

主な内容ですけれども、①の大会実施計画の策定、②は、施設関係費として国際ハンド

ボール連盟の視察を受けまして、各会場の基本設計を策定したいと思います。

⑧は、海外チームを招請してのプレ大会の開催、⑨は、熊本大会の前の大会となるドイツ大会関係の視察経費等です。

11ページをお願いします。

今回、大会の開催経費の試算を行いましたので、説明させていただきます。

表の左の費目をごらんください。1の施設関係費、2の大会準備費、3の大会開催費の3つに分けております。

また、表のまん中やや右に、19、女子大会(A)というのがあると思いますけれども、その欄の下の合計欄をごらんいただきたいんですけれども、総額で約36億円と試算しております。

その右の(B)の欄に、97年の男子大会の開催経費を載せております。合計で約23億円でしたので約13億円増加し、1.5倍となっております。

増加の要因を御説明いたします。

1番の要因は、1の施設関係費です。仮設席やコートの整備、また報道センターなどの施設整備費などですけれども、20年前の男子の大会と違いまして、現在の世界レベルの大会では会場に4面ビジョンなどを設置しまして、映像や音響、照明を活用し、ゲームを楽しく盛り上げるという演出が標準的になっております。

また男子の大会は気候がいい5月でしたけれども、今度は12月開催となりますので、空調費も必要になります。

さらに、男子の大会のときはパークドームを同じく使いましたが、まだ供用前の開催でした。現在はパークドームを供用しておりますので、いろんな仮設整備とかした後またもとに戻すという養生費、これも必要になります。

2番目の要因は、3の大会開催費です。今回の女子大会は、24チームが全部で88試合を

行う予定です。予選リーグ敗退チームによる順位戦も行われますので、参加チーム数は男子の大会と同じですけれども、8試合多くなります。試合数がふえれば、その分競技運営費も増加します。またチームも長く滞在しますので、選手・役員の宿泊費なども、その分増加します。

また会場警備も20年前とは状況が異なるため、経費を見込んでおります。

さらにファンゾーンですけれども、これは試合だけではなくて、ほかの場所でも観客に楽しんでもらうための施設です。ラグビーワールドカップも含め、現在ではさまざまなスポーツイベントには欠かせないものとなっております。これも、20年前の男子大会にはなかったものです。

なお表の下、※1に書いておりますけど、今回の試算には会場の八代市総合体育館、山鹿市総合体育館の仮設経費などは含んでおりません。これは前回の男子大会も同じ八代市、山鹿市の総合体育館を使ったわけなんですけども、そのときと同じ状況で比較しております。男子の大会のときは、それぞれ仮設経費はそれぞれの会場地が独自に負担されております。

来年度、各会場の基本設計を策定することにしておりますので、仮設経費などについても算定していきます。97年の大会のとおり、それぞれで負担するというやり方をやるのか、または組織委員会に負担金を出していただいて、組織委員会として支出していくかについては、今後、八代市や山鹿市と協議をしていくこととしております。

また、※2として、97年の男子の大会の収入を記載しています。県、熊本市、日本ハンドボール協会の負担金のほか、入場料収入、協賛金収入、国際ハンドボール連盟交付金で24億5,000万円の収入がありました。

今回、開催経費が前回に比べかなりの増加が見込まれておりますので、効率的な運営に

より準備経費を含め縮減に努めますとともに、入場料収入や協賛金などの収入をできるだけ確保しまして、県や熊本市の負担の軽減に努めてまいりたいと思います。

さらに、最後ですけれども、97年の大会のときの経済波及効果は、64億円との試算がなされています。

今回も多く経済波及効果を目指すとともに、多くの方に観戦していただき、大会を実施してよかったと、大会終了後も多くの県民の皆様方の中にレガシーが残るよう、オール熊本で取り組んでいく体制を築いていきたいと思っております。

次に、ラグビーワールドカップ2019熊本開催に関する件についてです。

12ページをお願いします。

大会概要は、記載のとおりです。説明は、省略させていただきます。

13ページをお願いします。

前回委員会後の取り組み状況を説明します。

①は、公認チームキャンプについてです。大会期間中、出場チームがベースキャンプとするものですが、県、熊本市連名で応募をいたしました。全国では76件、90自治体が応募したとのことでした。

現在、組織委員会による調査が行われておりまして、ことしの夏に選定、承認されれば、秋以降チームによる実地視察が行われ、順次決定されていきます。この公認キャンプ地は、前回のイングランド大会では41カ所が選ばれております。

②は、日本代表による熊本初の国際テストマッチについてです。6月10日土曜日、午後2時40分から、えがお健康スタジアムで日本代表とルーマニア代表との試合が行われます。

本会議で知事も答弁しましたとおり、今回のテストマッチは2年半後となったラグビーワールドカップに向けた機運の醸成や大会運

営の経験値を向上させる大変貴重な機会となります。今回のテストマッチの成功が、会場地熊本への大きな期待と評価につながると思います。運営面はもちろん、多くの観客で会場を埋め、熊本の元気を発信できるよう、県ラグビー協会などと連携して、精いっぱい取り組んでまいります。

チケットは、4月1日から一般販売が始まります。熊本の次の週の静岡、その次の週の東京で行われるテストマッチよりも安価な価格設定となっております。多くの方が会場にお越しになるよう、委員の皆様にも絶大なる御支援をお願いいたします。

14ページをお願いします。

広報・PR活動についてです。

女子のハンドボール世界選手権と一緒にPRは行っておりますので、ラグビーに特化したものを掲載しております。

①では、九州管内で行われたラグビートップリーグにおきまして、ワールドカップの会場地の福岡、大分と合同でPR活動を行いました。

このように、福岡、大分とは日ごろから連携を図っております、今回のテストマッチにおいても集客に御協力をいただくよう、協議を進めております。

②は、ラグビーの専門雑誌「ラグビーマガジン」への掲載です。編集部との御協力により、熊本の復興支援として、年末年始の「花園」特集として、別冊の表紙に熊本国際スポーツ大会のアンバサダーのくまモンと花園で出場した九州学院の選手を巻頭に載せていただきました。これには全出場チームが載っておりますので、発行部数も普段よりふえると聞いております。愛好者への会場地熊本へのPR効果は高くなったのではないかと思います。

15ページをお願いします。

③は、昨年12月25日が、大会1,000日前でした。熊本市内でPRブースを出し、大会3

年前に発足した公式サポーターズクラブの会員募集を行いました。

本日も、委員の皆様には、会員募集のカードを配付させていただいております。熊本では、会員数1万1,000人を目標としています。スマートフォンやパソコンからインターネットを通じ簡単に登録できます。会費は無料で、登録いただくと定期的に大会の情報などがメールマガジンとして届けられます。今後、チケット発売情報も発信される予定です。より多くの方にサポーターズクラブに御登録いただき、応援していただくことがワールドカップの成功につながっていくと思います。委員の皆様はもちろん、お知り合いの方にもぜひ広げていただきまして、多くの県民の皆様が登録されるよう、ぜひとも御協力をよろしくをお願いいたします。

④ですが、体育保健課により、ハンドボール同様ラグビー教室も県内各地で行われました。また、子どもたちが楢円のボールに日ごろから触れることができるよう、ラグビーボールも学校に配布されております。

16ページをお願いします。

(3)今後のスケジュールです。

最初のポツですが、年度末に推進協議会を開催し、来年度の事業計画や予算について審議をしていただくこととしています。

5月10日には予選プール分け、いわゆるグループ分けの抽選会が京都で行われます。

その後6月10日のテストマッチを経て、秋には試合日程、会場が決定され、熊本では何月何日にどこ対どの試合が行われるかが発表される予定です。

公認キャンプのスケジュールは、先ほど御説明したとおりです。

次の3は、来年度の予算です。今定例会に、14億8,000万円余を提案させていただいております。今回、大きな額になっておりますけれども、一番大きいのは⑧のスタジアム整備で、約10億円となっております。

整備内容は、次の17ページの図面もあわせてごらんください。

今年度に引き続き2カ年の事業で、図面の右上記載しておりますけれども、更衣室・ドーピングコントロール室の整備、左に記載しております照明の高照度化などに引き続き取り組むほか、来年度新たに右記載の座席、トイレなどの改修、またその下の、2面目の大型ビジョンの設置に取り組みます。

会場の県総合運動公園陸上競技場は県の施設ですので、いずれも事業主体は県です。財源としては、16ページの⑧にありますようにt o t oの助成金また国の交付金を活用します。

またビジョン整備は県10分の10となっておりますけれども、交付税措置のある地域活性化事業債を活用することとしております。

今回のスタジアム整備は、いずれも大会終了後も残り、長く利用できるものです。このような本施設工事は、大会1年前には整備を終えるよう求められておりますので、今回大きな額となっております、来年度が整備費のピークになると見込んでおります。

2番目に額として大きいのは、⑦の宝くじ拠出金で約3億7,000万円です。全国で協賛くじとして発売された宝くじの収益金の一部を、開催自治体を一旦経由して組織委員会へ拠出するものです。

それと、⑥の開催都市分担金5,000万円を差し引いた約4,000万円を、熊本市と負担し、推進協議会として、①から⑤の開催準備を行ってまいります。

18ページをお願いします。

ラグビーワールドカップ大会開催経費の試算です。

費目の1、施設整備費、2、施設環境整備費、3、大会準備費、4、大会開催費として、合計で47億2,000万円と試算いたしております。

このうち黄色のマーカーをしている部分

が、先ほど説明しましたスタジアムの整備など大会終了後も使用できるものとして、施設を所有する県が整備するもので、1の施設整備費、2の施設環境整備費として約23億円と、総経費の約半分を占めています。

ラグビーワールドカップの開催に求められる水準での整備となりますので、金額も多額に上りますけれども、今後も長く使える県の資産として整備しますので、今後大規模なスポーツ大会や魅力ある各種イベントの誘致の可能性が高まりますし、また、このスタジアムをホームとしているロアッソ熊本など、多くの県民もより快適に利用できることになると考えております。

黄色の部分以外については、同じ開催都市となる熊本市と折半での負担となります。その分としては、1の施設整備費では大会開催地だけに整備する仮設の報道センター、ゲストラウンジ、ホスピタリティー施設、トイレなどの整備、2の施設環境整備費として、大会開催時、現在の広告物等を見えなくするクリーンベンチャー、ICT環境の整備、芝の敷設などのピッチ工事、3の大会準備費として、広報、都市装飾、組織委員会への分担金、事務局経費、4の大会開催費として、観客輸送、会場警備、ファンゾーンの設置運営費などです。

なお、ハンドボール世界選手権と違いまして、ラグビーワールドカップは入場料収入は大会組織委員会の、またスポンサー収入は、大会を主催するワールドラグビーの収入となりますので、地元開催地の収入とはなりません。

今回、熊本で3試合が開催された場合を想定して試算しております。下の参考欄にありますように、同じ九州の開催地である福岡、大分でもそれぞれ開催、3試合実施した場合の経済波及効果を、日本政策投資銀行九州支店が350億円と試算されております。

ラグビーワールドカップは、開催期間が1

カ月半、会場は全国12会場で行われます。海外からも多くの観戦者が来日し、長期滞在することが見込まれます。この機会を捉え、大会の開催効果が最大化するよう、九州の開催地や公認キャンプ地とも連携し、取り組みを進めてまいります。

次は、東京オリンピック・パラリンピック関係です。

19ページは、それぞれの概要ですので、省略させていただきます。

20ページをお願いします。取り組み状況です。

①ですが、インドネシアバドミントンチームのキャンプ誘致活動の一環として、1月、県立体育館で行われた地元再春館チームが出場したS/Jリーグに、インドネシアからの留学生の方を県バドミントン協会の御協力により招待したところです。

②は、県政番組で、東京パラリンピックに向けた県の選手育成・強化の取り組みを紹介しているところです。

21ページをお願いします。

3は、来年度の予算の概要です。

インドネシアバドミントンチームやノルウェーボートカヌーチームなどの具体的な誘致活動を引き続き進めるとともに、誘致を希望する市町村や競技団体を引き続き支援してまいります。

○平田体育保健課長 体育保健課でございます。着座にて説明させていただきます。

同21ページの(2)の、2020東京オリンピック選手育成事業についてでございます。

本事業は、2020年に開催される東京オリンピック出場可能性のある本県関係者を育成し、多くの出場者を生み出すことにより、本県スポーツの振興及び県民幸福量の増大を図ることを目的とした事業でございます。

具体的には、オリンピック実施31競技団体からの推薦により30人程度を指定し、国内外

への合宿遠征や医化学を活用した効果的なトレーニングに要する経費を補助するものでございます。

事業費といたしまして2,128万3,000円を計上しております。

以上でございます。

○井上障がい者支援課長 障がい者支援課でございます。

(3)の東京パラリンピック選手育成強化推進事業でございます。29年度予算として、1,200万円をお願いしております。

いろんな競技団体、特別支援学校などからの推薦によって、16人程度を強化指定選手に指定して、選手を育成したいというふうに思っております。合宿遠征費の補助ですとか、医化学を活用した効果的なトレーニングの提供などを行う予定でございます。

以上でございます。

○水谷国際スポーツ大会推進課長 次に、4、共通する事項についてです。

22ページをお願いします。

こちらは、国際スポーツ大会の主なスケジュールです。

内容は、これまで説明したものと重複しますので省略いたしますが、来年度はいずれの事業も準備がさらに本格化してまいります。

最後に、昨年策定した国際スポーツ大会のレガシープログラム「ハロープログラム」の取り組みについてです。

23ページにA3になっておりますので、申しわけありませんが、広げていただけますでしょうか。

執行部では、知事を本部長とし、各部局長から成る国際スポーツ大会推進本部を設置し、国際スポーツ大会の成功に向けた取り組みを全庁的に推進しています。

その中で、蒲島知事から、国際スポーツ大会の開催は、単にスポーツ大会を開催するだ

けでなく、その準備やその成功に向けた県のさまざまな取り組みは県民の総幸福量の最大化につながるというお話をいただいております。

そこで今回、来年度、県庁各部署が取り組む主な関連事業を、「ハロープログラム」の4つの柱、表頭の赤い部分です、左から、「震災からの復興の姿の発信」、「スポーツの普及と振興」、「インバウンド観光の推進」、「国際交流の促進」と、「県民の総幸福量の最大化」の4つの要因——表側の青い部分ですけれども——「経済的豊さ」、「品格と誇り」、「安全安心」、「夢」とのマトリックス表として取りまとめてみました。

今後2019年に向け、各部署の関連事業もさらにふえていくと思いますけれども、県庁だけにとどまらず、この取り組みをオール熊本で広げていかなければならないと考えております。

この中で、本日は1つだけ紹介させていただきます。

表のまん中からやや右下に、インバウンドバリアフリーサポーターの養成及び活用とあります。これは、内閣官房が東京オリンピック・パラリンピックに向けて進められている外国人観光客、障がい者等に対する新たなサポート運動に、オリンピックの前年に国際スポーツ大会を開催する本県が、現在のところ地方から唯一参加し協議を進めているものです。

来年度は、障がい者の理解、心のバリアフリーに向けた試行的な取り組みを行うとともに、大会に向け、昨年設立しました熊本国際スポーツ大会実行委員会の皆様と連携した取り組みに広げていきたいと考えております。

説明は、以上です。御審議のほど、よろしくお願いいたします。

○溝口幸治委員長 以上で説明が終わりましたので、質疑に入ります。

まず、2019女子ハンドボール世界選手権熊本開催に関する件について、質疑を受けたいと思います。何かありますか。

○松野明美委員 今、事業の説明をいただきまして、先日行われました熊本城マラソンの配布物の中にも、そういうチラシが入ってまして、多分1万3,000人のランナーの御家族とかも多分目に触れたんじゃないかなと。多分、3万人、4万人の方たちがそのチラシを見て、あ、いよいよやっていくんだなというように感じられたんじゃないかなと思ひまして、本当に御苦労に感謝を申し上げます。

言うことはないんですけども、やはりスポーツ大会はいろいろテーマソング、支援ソングがいつも流れています。いろんな会場に行きますと、その曲が流れておりまして、帰りにはその、私の時代はカセットテープだったんですけど、そういうテープを買って、次の大会に向けて合宿所とかに、聞きながら練習をしたという思い出があるんですが、ぜひ応援ソング、テーマソングを御検討していただきたいなと思います。

もっと言えば多国籍語、日本語だけではなくて、いろんな国の言葉で応援ソングをつくっていただきまして、せっかくくまモンがいますから、くまモンを使ってPRをしていただくと、もっともって話題になるんじゃないかなと思います。

くまモンの公式ソングに、熊本サプライズとか、森高千里さんが歌っている「くまモンもん」がヒットをしていますけれども、また動画のほうでも「くまモンの休日」というかわいい動画がありまして、非常に私たちもほっこりと和んだ気持ちになるんですが、ぜひそういうふうなスポーツイベントのプロモーションの動画とか、そういう応援ソングを御検討していただくとうれしいなと思いますが、いかがでしょうか。

○溝口幸治委員長 今の件はハンドボールに限らずという。

○松野明美委員 ええ。ラグビーとかそういう。

○溝口幸治委員長 全体的なことですね。

○水谷国際スポーツ大会推進課長 ありがとうございます。

資料の10ページに来年度の予算を載せておりますけれども、来年度予算に、④のところですが、大会広報プロモーションとしまして、テーマソングをつくるということを計画しております。

男子の大会のときもテーマソングというものはつくったんですけども、そのときは英語で、アメリカの方が、公募してアメリカの方に決まったんですけども、その方が英語で歌うテーマソングがありまして、確かに大会の雰囲気というか、PRプロモーションに非常によかったので、今回もぜひいいものをつくりたいというふうに考えております。

あとラグビーについては、大会全体の熊本でというのは、ちょっと難しいのかもしれませんが、何らか工夫しながらラグビーのほうも盛り上がっていくように検討したいと思っております。

○松野明美委員 選手が練習中に、その曲がまたよみがえってくるんですよね。その中で、私もソウルオリンピックのときに「ハンド・イン・ハンド」というテーマソングが流れていたんですけど、今でも、カセットテープですけど持っていて、走りながら。そういう曲が流れるんですね。そういうふうに、ずっとこの熊本の大会を忘れることなく持ち続けていただけるように、思い出になってくれるような、そういうようなテーマソ

ングを考えていただきたいなと思います。

はい、以上になります。

○溝口幸治委員長 ほかにございませんか。ハンドボールについて。

○浦田祐三子委員 2ページに昨年の取り組みということで、ヨーロッパ選手権の女性職員の方が行かれたということですが、今度の大会はやっぱり女子の大会ということで、女性の視点が非常に、男性の大会のときと比べると、ちょっと気をつけなければいけない部分も多々あるのかと思いますが、何かお気づきの点とかあられたんでしょうか。

○溝口幸治委員長 行った女性の方に。

○水谷国際スポーツ大会推進課長 行った職員から聞いた話によりますと、スウェーデン、そういう視点で確かに派遣したんですけども、スウェーデンとか北欧の国は、男女の区別さえも意識しないような、そんな運営をされていたという報告を受けました。日本はまだちょっと、そこまではいってないのかもしれないかもしれませんが、もうそういう男女を余り考えなくても、自然と女性がプレーできるとか、自然と女性が観戦できるとか、そんな雰囲気を感じてきましたという報告を受けております。

○溝口幸治委員長 ほかにございませんか。

○早田順一副委員長 11ページなんですけども、経済波及効果のことでお尋ねしますが、ラグビーと比べると経済波及効果というものも少なくなるんじゃないかなと思っております。

97年が64億円になっております。これから地元のいろんな団体と協議をされていくと思っておりますけども、やはり熊本市はある程度何と

なくこう見えるんですけども、開催地の八代とか私の地元の山鹿とか、そういう開催地との今後のやり取りといいますか、どういったふうに計画的に持っていられるのか。とにかく地元が潤うような取り組みをしてほしいと思っておりますので、その辺の何かお考えがあれば教えてください。

○水谷国際スポーツ大会推進課長 今回も前回の男子大会と同様、八代市と山鹿市の体育館を会場とさせていただいております。

大会まであと1,000日を切ったわけなんですけれども、できるだけですね、例えば選手が泊まっていたかと一番いいんですけども、選手とか観客の方がですね、大会のときに地元泊まっていたりとか、そういったことにつながるよう、その手前のプレ大会とかそういうときからも、できるだけそういうところで開催しまして、そういうふうに八代と山鹿も盛り上げていくように、徐々に機運を盛り上げていきたいと考えております。

○早田順一副委員長 それで具体的にですね、例えば、今日の熊日の一面に載ってましたけども、上通りとか下通り、何か県外一円が4分の1と書いてありましたけども、県外のお店だから協力しないとかそういうのはないかと思いますが、具体的に、例えば商店街の人たちとどういう取り組みをしていくのか、そうやってとにかく地元にお金が落ちる工面、そういったものを具体的にぜひ取り組んでいただきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

○溝口幸治委員長 ほかにございませんか。

なければ、次にラグビーワールドカップ2019熊本開催に関する件について質疑を受けたいと思います。どなたか、ございませんか。

○氷室雄一郎委員 議会の中でもちょっと知事のほうから、復興応援チケットについての話がちょっとあったんですけども、ちょっともう少し具体的に。

もうこの4月1日から発売されているんですか。どうなんですかね。

○水谷国際スポーツ大会推進課長 吉田議員の御質問に知事が、今度のテストマッチで、日本ラグビー協会が復興支援も考えたチケットを考えているという、ちょっと正確じゃないかもしれませんが、そういう答弁をさせていただきました。

それは以前から、そういうお話を日本ラグビー協会とはさせていただいております、具体的には、今チケットの価格があるんですけども、一番いい席は6,000円なんですけども、それに500円を上乗せして買っていて、その500円が復興支援の分になるんですけれども、その500円を上乗せした方にはバッジを一応渡して、そのバッジ代の差額の残りを熊本に何らかの形でお渡しするようなことをしたいというふうなことで今進んでおります。実際もう既にそういうことで発売もされております。先行発売の分です。

○氷室雄一郎委員 余りよくわからぬが、じゃ既に先行販売をされているわけですね。

○水谷国際スポーツ大会推進課長 先行販売は、もう既に始まっておりまして、はい。

○氷室雄一郎委員 復興チケットなるものですか。

○水谷国際スポーツ大会推進課長 そういうふう聞いております。そういうふうに日本協会のほうから発表もされておりますので、あと、どういう仕組みでそれが回っていくの

かは、ちょっと詳細はわからないんですけども、いずれにしても500円を上乗せして、そのお返しとしてバッジを配られて、その差額の分をまとめて熊本のほうにお渡ししたいというお話はいただいております。

○氷室雄一郎委員 一般の方は、非常に興味を持っておられる方は別として、一般の方はなかなかわかりにくいので、せっかく復興チケットなるものを計画されているのなら、もう少しPRをして県民の皆さんに、また県外の皆さんにもしっかり応援していただくということで、またその辺もよろしく願いしておきます。

○溝口幸治委員長 チケットに関しては組織委員会で全部グリップされて、県とかには何の裁量もないということですね。

○水谷国際スポーツ大会推進課長 日本ラグビー協会がグリップしておりまして、県がチケットをどうこうは確かにできていません。

○溝口幸治委員長 ということですね。

○水谷国際スポーツ大会推進課長 はい。

○溝口幸治委員長 ほかにございませんか、ラグビーについて。

○橋口海平委員 チケットに関しては、多分選択ができますよね、6,000円と6,500円どっちを買うかというのは、買う人が選択をして各支援に回すか回さないかというのを選択ができるようになってきていると思うんですが、それとはまた別で、吉田先生が一般質問の中で、今回の今度あるテストマッチというものは非常に大事だというような意見があって、なぜかという、今度秋に熊本にどの試合がくるのかが決まる、だから今度のテストマッ

チは大事だという話だったんですが、その1つがやっぱり席を埋めないとアピールというものはなかなかできないと思うんですが、その席を埋めるために何か工夫とかそういうのをされるのかどうかというのを、まだ今からだと思うんですが、ちょっとお聞かせいただきたいと思います。

○水谷国際スポーツ大会推進課長 はい、ありがとうございます。ぜひ席をたくさん埋めたいと考えております。

具体的な集客という面の動きは確かにこれからなんですけど、その前段で、えがお健康スタジアムはすごくアクセスがしやすい会場となっております。

会場がもし満員になると、3万2,000人です。そういったスポーツイベントでそれだけ満員になるというのは、なかなか経験がございませんので、仮に来られるとなったときに、どうすればいいかということですね。現在はパーク&ライドで会場に来ていただこうと思ひまして、いろんな周辺の駐車場あたりを確保するような、そういった動きを現在はやっております。

○橋口海平委員 そういう取り組みだったり被災地の子どもたちだったり、そういう子どもたちもぜひ招待していただければ、多分子どもたちに勇気が与えられるんじゃないかなと思いますので、よろしく願ひします。

○溝口幸治委員長 ほかにございませんか。

今の動員の話は、非常に大事ですよ。ここでやらかしたら終わりましたみたいな話になりかねないので、まさに動員が得意な先生方がいらっしゃいますので、今度新しい委員会になったら、すぐ動員計画も、委員会は委員会としてきちっと立てて、本当1人何人と割り振ってということまでやらないと、多分子どもを招待したぐらいじゃなかなかです

ね。子どもたちの招待も大事でしょうけど、県下各地から寄せないと厳しいですよ。そこは、また委員会と執行部と協議をしながらやっていきたいと思えます。

○橋口海平委員 前売券だったら、一番安い席は、確か子どもは1人1,000円だったと思うんで結構安いんです。

○溝口幸治委員長 ああ、子どもね。そこは戦略的にやらないかぬですね。

ほかにございませんか。いいですか。はい。

それでは、次に2020東京オリンピック・パラリンピック競技大会に関する件について、質疑を受けたいと思えます。オリンピック・パラリンピックについて、質疑ございませんか。

○末松直洋委員 20ページの、インドネシアバドミントンチームの事前キャンプの誘致活動ということですが、何かインドネシアの担当大臣が交代されたので、今どうなっているのかなど。引き続き交渉されているのかどうか、そこら辺を教えてくださいたいと思えます。

○水谷国際スポーツ大会推進課長 末松委員のおっしゃるとおり、リオオリンピックの後にインドネシアバドミントン協会の会長がかわられまして、現在は政府のかなり重要なポストの大臣の方になりました。

継続的にバドミントン協会の事務局とは、7月に1回訪問しまして、今後詰めていきたいと思いますということまではいっていたものですから、具体的な活動ができるようメール等のやり取りで連絡はしております。

ただ、その会長がかわられてすぐということもあって、なかなかそことの連携、連絡といますか、まだとれてないので、申しわけ

ないけども、もうちょっと待ってくださいというような返事をいただいている状況です。

○末松直洋委員 ぜひ、今後とも引き続き来ていただけるように、ぜひ御尽力をよろしく願います。

○溝口幸治委員長 ほかにございませんか。

○松野明美委員 21ページの東京オリンピック・パラリンピックの選手育成支援事業につきまして、オリンピックのほうは30人程度を育成といいますか、指定選手にして、パラリンピックのほうは16人ということなんですけれども、1人幾らぐらいなんですか。

○平田体育保健課長 1人当たり50万から70万程度になるかと考えております。

○溝口幸治委員長 ではパラリンピック、井上課長。

○井上障がい者支援課長 1人当たり60万から30万程度になるのではないかとこのように思えます。

○松野明美委員 その60万から30万とかの、その差というのは、成績とか期待とか、そういうようなことでは違うんでしょうか。

○平田体育保健課長 事前に強化の練習計画を出していただきまして、その練習計画によって内容を確認しながら金額を決めていくところでございます。

○井上障がい者支援課長 失礼いたしました。80万から40万程度でございますが、オリンピックと同じようにクラスを分けて、それで差をつける予定にしております。

○松野明美委員 わかりました。確かパラリ

ンピックのほうの選手は、ランクづけがA、B、Cか何かに分かれているということを以前お聞きしましたがけれども、オリンピックのほうは、私たちのときはS、A、B、Cか何かに分かっていたんですよね。スペシャルか何か、そういうのと何か分かっていたんですけど、現在はいかがなんでしょうか、こちらは。

○平田体育保健課長 オリンピック選手育成につきましては、ランク分けは行っておりません。

○井上障がい者支援課長 パラリンピックにつきましては、Sから育成まで分けております。国際大会への出場、その成績などを考慮しております。

○松野明美委員 わかりました。私たちのときは確か30万円くらいだったかなという思い出があるんですが、やはり経費というのは、いろんなところの合宿とかに行きますので、ぜひその増額といいますか、よろしく願いいたします。

はい、以上になります。

○溝口幸治委員長 ほかにございませんか。（「関連して、よろしいですか」と呼ぶ者あり）

○濱田大造委員 強化選手の取り組みについて、都道府県によってものすごく力を入れている県もあるような気がするんですが、熊本のこの強化選手の費用とか人数というのは、ほかの県と比べてどうなのか教えてください。

○平田体育保健課長 他県では、実施されているところ、されていないところもございます。済みませんが、ここにはちょっと手元に他県の様子を持ってきておりませんので、後

でまた報告させていただいてよろしいでしょうか。

○井上障がい者支援課長 パラリンピックの選手育成についても、実施している県、していない県がございます。詳しい内容については、手元に情報がないので、また改めてお知らせしたいと思います。

○溝口幸治委員長 ほかにございませんか。いいですか、よろしいですか。

それでは、次に共通する事項について質疑はありませんか。

なければ、これで質疑を終了いたします。

次に、閉会中の継続審査についてお諮りいたします。

本委員会に付託の調査事件については、審査未了のため次期定例会まで本委員会を存続して審査する旨、議長に申し出ることとして、よろしいでしょうか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○溝口幸治委員長 異議なしと認め、そのようにいたします。

その他に入りますが、何かございませんか。

（「ありません」と呼ぶ者あり）

○溝口幸治委員長 なければ、これをもちまして本日の委員会を閉会いたします。

ここで、本年最後の委員会でございますので、一言御挨拶を申し上げます。

昨年に引き続いて、2年連続で委員長を務めさせていただきました。

早田副委員長を初め委員の先生方には大変御協力をいただきまして、いい議論ができたというふうに思っております。改めて、感謝を申し上げます。ありがとうございました。

1,000日切ったという話がありましたけど、もう2年半ぐらいになるかと思えますけど、2019年の9月の20日からラグビーが始まって、11月の2日まで、その後11月の30日か

らハンドボールが始まって、12月の15日まで。

そして2020年の7月24日からオリンピック、そしてパラリンピックが終わるのが9月の6日ということで、もうこれ日にちが決まっていますので、これに向けて議会と執行部と一体となってやっていかなければならないというふうに思っています。その間に何か総体のやつも入っていますね、平田課長ね。そういう行事も入ってくるそうであります。

2019年といえば、我々にとっては改選の年なんです。なので、もう1回4月に選挙をして、選挙を終わって帰ってきて、そして取り組むということで、非常にタイトなスケジュールになると思いますので、選挙の前、選挙の期間中というのはなかなか動きも鈍うございますので、やっぱり来年度、29年度非常に大事な年になるんじゃないかというふうに思っています。

先ほどのテストマッチとか、失敗は許されませんので、大渋滞を起こそうが何しようが、3万2,000人入れるというつもりで、我々も取り組んでいかなければならないというふうに思っています。

とにかく地震があつて、地震直後は果たしてこれできるんだろうかというような不安を一時持ったわけではありますが、その後、執行部の努力、それから委員の皆さん方の御協力でここまで盛り返してきましたので、ぜひ熊本の元気のためにも、この委員会を引っぱっていただいて、そしてすばらしい大会になるように皆さん方と協力していきたいというふうに思います。

改めて、皆さん方に心から感謝申し上げまして、お礼の御挨拶にさせていただきます。ありがとうございました。（拍手）

○早田順一副委員長 それでは私のほうからも、お礼を申し上げたいと思います。

昨年、熊本地震があつて、この特別委員会

も通常よりは回数が少のうございました。しかしながら、溝口委員長を初め執行部、委員の皆様方には大変お世話にもなりましたし、執行部の皆さん方にも真摯に御回答いただいたというふうに思っております。

これから、先ほど委員長が申されましたとおり、大会成功に向けて一丸となって協力しながら頑張らせていただきたいと思いますので、どうぞ今後ともよろしくお願い申し上げます。お礼の言葉にかえさせていただきます。

ありがとうございました。（拍手）

○溝口幸治委員長 先ほどちょっと説明ありましたが、第41回日本ハンドボールリーグ女子プレーオフの観戦の招待についてということで、きておりますので、ぜひ皆さん御協力をお願いしたいと思います。

それから、先ほどのサポーターズクラブですね、これは多分、配っただけではなかなか無理なので、皆さん一人ずつこうスマホを突いていただいて、そこまでしないと入れないというふうに思います。

それから、きょうは12時からテルサで懇親会を予定しておりますので、御出席のほうをよろしくお願いいたします。

それでは、本日の委員会をこれで閉会いたします。ありがとうございました。

午前10時54分閉会

熊本県議会委員会条例第29条の規定によりここに署名する

国際スポーツ大会推進特別委員会委員長